

# みんなのみなと

2012年 秋号

「みんなのみなと」は皆さんにとって身近な病院になりたい、皆さんと職員が一つになってこの病院を作っていききたいという思いで命名しました。(命名者：山本血液内科部長)



笑顔が元気の源です

## Contents

- P1～2 …… 巻頭インタビュー 阿部副院長に聞く！  
～みなと赤十字病院における今後のがん診療とは～
- P3 …… ママと赤ちゃんのことは当院にお任せ！  
～地域周産期母子医療センターに認定されました～
- P4 …… 糖尿病をお持ちの方に朗報！  
～24時間簡単に血糖変動を測定できるようになりました～  
防災訓練に参加しました
- P5 …… シリーズ 当院の歴史①  
講演会のお知らせ



**横浜市立みなと赤十字病院**

YOKOHAMA CITY MINATO RED CROSS HOSPITAL

# おける今後のがん診療とは～



阿部副院長・がんセンター長

がんなどの悪性腫瘍は、我が国の死亡原因の第二位であり、全死亡の三分の一を占めているといわれています。また、医療技術が進んだ現在においても、「がんは怖い」というイメージがあると思います。このような中、横浜市立みなと赤十字病院は、昨年11月に「がんセンター」を設立し、また今年4月には、厚生労働省から「地域がん診療連携拠点病院」(※下記用語解説参照)の指定を受けました。今回は、がんセンター長である阿部哲夫副院長に、「がんセンター」について、インタビューしました。

**Q** 今年4月1日付で、「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。この「地域がん診療連携拠点病院」とはどのようなものでしょうか。

**A** 国は、全国どこでも質の高いがん治療を受けることができるよう、「地域がん診療連携拠点病院」を始めとする

拠点病院を整備しています。

「地域がん診療連携拠点病院」になるには、専門的な知識及び技能を有する医師やその他の医療スタッフの配置が求められるなど、一定の要件を満たす必要があります。今回、当院が「地域がん診療連携拠点病院」に指定されたということは、当院のがん診療に対して高い評価が得られたものと考えています。

**Q** 「地域がん診療連携拠点病院」の指定に先駆けて、昨年、院内に「がんセンター」を設立しました。この「がんセンター」とは、どのようなもので、またどのような効果が期待できるのでしょうか。

**A** これまでのがん診療は、診療科ごとの縦割りの診療でした。

一方、「がんセンター」では、診療科の枠を超え、医師、看護師、その他の医療スタッフをメンバーとする横断的なチームを編成し、患者さん中心の医療を提供しています。

具体的には、専門医師を始め、様々な職種が一堂に集まり、患者さんの症状、状態、治療方針等を検討し、情報を共有するためのカンファレンスを行い、最適な治療方針の検討を行っています。

**Q** がんになった場合、いろいろな悩みや相談事が出てくると思います。そのようなとき、患者さんはどうしたらよいのでしょうか。

**A** そのようなときは、是非、当院の「がん相談支援センター」にご相談ください。がんに関するさまざまな相談を、看護師やソーシャルワーカーがお受けしています。患者さんやそのご家族が、その人らしい生活を送ることができるよう、一緒になって考えます。



がん相談支援センターは、当院の1階（正面玄関をいって左奥）にあります。

## ※用語解説

### 「地域がん診療連携拠点病院」

専門的ながん医療の提供を行うと共に、がん診療の連携体制の整備、がん患者に対する相談支援、情報提供等を行う病院で、地域のがん診療の質の向上を図ることを目的に国が指定します。



# 阿部副院長に聞く! ～みなと赤十字病院に

**Q** 今年の7月には、化学療法センターもオープンしたそうですね。

**A** がん治療における化学療法（※）の件数は、年々増加しています。当院でも、これまで1階にあった化学療法センターを5階に移転し、ベッド数もこれまでの8床から24床へと、大幅に拡充しました。

専門スタッフ（がん薬物療法認定薬剤師など）が常駐し、より快適で安全な化学療法を行い、患者さんを支援します。



化学療法センターでは最新の機器を備えています。きれいで快適な環境です。

**Q** 「緩和ケア」を希望する場合、どのようにしたらよいのでしょうか。

**A** 当院の2階に「緩和ケア病棟」があります。海が見え大変景色がよく、ゆったりと過ごせます。患者さんからは「ここにきて良かった」という感想をたくさん頂戴しています。

患者さんの身体的・精神的苦痛が少しでもなくなるよう、スタッフ一人一人が日々のケアにあたっています。入院を希望される場合は、まず「緩和ケア外来」の受診が必要になりますので、主治医にご相談ください。



ダイルームからも海が臨めます。

**Q** 最後に、みなと赤十字病院におけるこれからのがん診療について、一言お願いします。

**A** がん診療のポイントは、早期発見と正確な治療です。そして、早期発見の

ためには、「がん検診」が最も大切です。当院の健診センターで予約することが可能ですので、毎年、がん検診を受診することをおすすめします。

また、来年1月には、PET・CT（※）を導入します。これにより、正確ながん診断に基づき、今まで以上の確かな治療を行うことができます。

当院がんセンターでは、これからも、関連部署の力を結集して、患者さんを最優先に考え、患者さん一人一人に適したがん診療を提供します。



がん検診の予約はこちらどうぞ

## ※用語解説

### 「がん化学療法」

化学物質(抗がん剤)を用いて、がん細胞を破壊する治療法 (出典: 独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターホームページ)

### 「PET・CT」

全身の悪性腫瘍を早期に発見することを目的に開発された撮影装置

# ママと赤ちゃんのことは当院にお任せ！



～「地域周産期母子医療センター」に認定されました～



小児科医長 栗生 耕太

今年7月、みなと赤十字病院は、神奈川県から「地域周産期母子医療センター」(※)に認定されました。すこやかな赤ちゃんの成長を願って、わたしたちの病院で行っている取り組みをご紹介します。

## 不測の事態に備えて

「お産」といえば、赤ちゃんが元気に泣いて生まれてくるイメージがあります。しかし、100人の赤ちゃんが生まれると、そのうち10人は生まれた直後にうまく泣けず、なんらかの処置が必要になるといわれています。さらにそのうち1人は、人工呼吸など高度な医療処置が必要といわれています。また、昨今ではリスクの高い妊婦さんからの出産も増加しています。わたしたちの病院では、「地域周産期母子医療センター」の認定に伴い、10月から小児科医のうち、赤ちゃんのみを担当する医師が24時間365日常駐し、様々な赤ちゃんのトラブルに迅速に対応できるようになりました。また、産婦人科病棟のスタッフも日本周産期・新生児学会の新生児蘇生講習会を受講し、不測の事態に備えています。

## 母乳栄養をおすすめしています！

すこやかな赤ちゃんの成長には母乳が欠かせないと考えています。お母さんが母乳育児を楽しく、そして上手にするためには、母乳について知ることで、赤ちゃんが生まれたら速やかに触れ合うこと、そして、いつでも母乳をあげられる状態にあることが大切と考えています。そのため、出産準備クラスでは母乳や出産直後の早期母子接触(いわゆるカンガルーケア)の大切さをお話しています。また、産婦人科病棟では全ての患者さんが母子同室です。



看護師(右)が母乳支援を行っています。

## 小児科もお産をバックアップします！

小児科病棟にあるNICU(新生児

集中治療室)では、赤ちゃんの治療

を行っています。予定日より早く生まれてきた赤ちゃん、体重の少ない赤ちゃん、呼吸の助けを必要とする赤ちゃん、感染症の赤ちゃん、黄疸の赤ちゃんなど、赤ちゃんにも様々な病気があります。これらの赤ちゃんの治療については、NICUで行っています。また、NICUにいる赤ちゃんだけでなく、産婦人科病棟で母子同室をしている赤ちゃんも定期的に小児科医が診察し、赤ちゃんの困りごとに対応しています。なにか赤ちゃんについて困ったことや不安なことがあれば、いつでも小児科医師にご相談下さい。



NICUにはベッドが6つあります。

## ※用語解説

### 「地域周産期母子医療センター」

産科及び小児科を備え、周産期(※)に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設のことをいいます。国の周産期医療システム整備指針に基づき、神奈川県が認定します。

### 周産期

妊娠22週から出生後7日未満の期間を指します。この期間は合併症の発症や分娩時の急変など、母子ともに身体・生命にかかわる事態が発生する可能性が高くなる期間であり、緊急時の医療体制の確保が特に必要です。(出典：神奈川県ホームページ)

## 糖尿病をお持ちの方に朗報！

～ 24 時間簡単に血糖変動を測定できるようになりました！～

副病院長・糖尿病内分泌内科部長 渡辺孝之



本体は500円玉より少し大きいサイズです。

当院糖尿病内分泌内科には、現在約1,000人の糖尿病患者さんが通院されています。糖尿病は、薬物治療のみでは改善せず、食事や運動など生活習慣の改善が重要です。糖尿病の治療目的は、網膜症、腎症、神経障害や心血管病などを予防し、進展を防止することです。その目的を達成するためには、日々の血糖コントロールが大切です。インスリンやインクレチンの注射治療中の方は、自己血糖測定により、通常、1日1回から4回、食事の前や寝る前の血糖を測定します。しかし、血糖値は変動が激しく、数回の測定では日内変動を正確に把握することは難しいのが実情です。

当院では、保険適用直前の2010年2月にCGM（持続ブドウ糖モニタリング）の測定器を導入し、5分おきに連続3日間の血糖変動を把握する検査を、入院患者さんを対象に実施してきました。今年になり測定器が大幅に小型化され、配線のコードも無くなり、外来でも簡単に装着できる新型が登場しました。当院でも早速新型測定器を購入し、外来でのCGMを始めています。CGMにより、従来把握しづらかった、夜間や明け方の低血糖や、食事後の血糖上昇のピークなどが手に取るようにわかります。そのデータをもとにして、注射の種類や分量、時間帯を調整することで、血糖をより良くコントロールし、不快で危険な低血糖症状の発現を抑えることができるようになりました。

担当医が必要と判断しておすすめる場合が通常ですが、自己管理のため、ご希望になる患者さんもうつしやいます。血糖変動の不安定な糖尿病患者さんには保険が適用されます。詳細は、糖尿病内分泌内科の医師にご相談ください。



救護所の前にて

## 防災訓練に参加しました

9月1日（土）「防災の日」、第33回九都県市合同防災訓練が開催されました。東京湾北部を震源域とするマグニチュード7.3の地震が発生したとの想定のもと、当院からは医師・看護師等で構成される救護班が参加しました。また、県や市だけではなく、消防や自衛隊、地元住民の方々や赤十字地域奉仕団等を始めとする多くのボランティアが参加しました。さらには、野田内閣総理大臣・政府調査団の視察もありました。当院は赤十字病院として救護班を常備しており、積極的にこのような訓練に参加しています。災害時には医療救護を通して地域に貢献できるように今回の訓練を活かしていきたいと考えています。

## シリーズ 当院の歴史①

今回から数回にわたり、横浜市立みなと赤十字病院の歴史や特徴等についてお話しします。

当院は、平成17年4月1日に、横浜市立港湾病院と横浜赤十字病院の2つの病院が、いわば「合併」する形で開院しました。

もともと、当院の建物は、老朽化した横浜市立港湾病院を建替えるために、横浜市が整備したものでした。

当初、横浜市はこの病院を、(新)横浜市立港湾病院とする予定でしたが、市立病院を取り巻く環境が大きく変化したため、横浜市はこの新病院を民営化する方針に変更し、病院の運営を日本赤十字社に委託することになったのです。

このため、病院の建物は横浜市が整備し、運営は日本赤十字社が行う形態になっています。(この運営形態を「指定管理者制度」といいます。)

また、当院の開設者は横浜市長となっています。(当院が「横浜市立」の病院であるのは、このためです。)

今回は、当院のもう一つの前身である、横浜赤十字病院の歴史についてご紹介する予定です。

## 講演会のお知らせ

### 「関節リウマチの合併症」

【日時】11月22日(木) 15時  
【場所】当院  
【問い合わせ先】045-628-6381  
アレルギーセンター

【申込先】10月11日から電話で受け付けています  
045-628-6381

【定員】先着80名

### 「生活習慣病のこま・ほんま?」

【日時】11月24日(土) 13時  
【場所】はまぎんホールヴィアマール  
【問い合わせ先】045-628-6365  
地域医療連携課

【申込先】

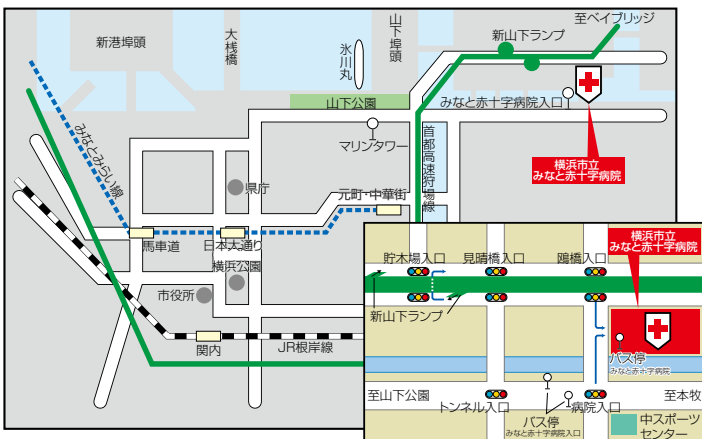
当院ホームページから (<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>) の専用申込フォームからお申込みください。

FAX、お葉書の場合①氏名②性別③年齢④住所⑤電話番号⑥質問事項⑦「みんなのみなとを見た」とお書き下さい。

〒231-8600  
中区新山下3-12-1  
FAX 045-628-6884

【定員】450名  
定員になり次第、締め切らせて頂きます。

## 交通のご案内



### 交通機関のご案内

#### 横浜駅、桜木町駅から

- ・市営バス8、26、58、148(急行)系統  
「みなと赤十字病院入口」下車徒歩3分または、  
「みなと赤十字病院」下車
- ・フジエクスプレス134系統(桜木町駅から)  
「みなと赤十字病院」下車

#### 磯子駅、根岸駅から

- ・市営バス58系統  
「みなと赤十字病院入口」下車徒歩3分または、  
「みなと赤十字病院」下車

#### 上大岡駅から

- ・市営バス2系統「みなと赤十字病院」下車

### 車をご利用の場合

- ・首都高速：新山下ランプを利用

### 駐車場ご案内

- 病院地下駐車場：206台  
病院前駐車場：94台(24時間駐車可)
- ・平日/7:30~20:30  
土曜・日曜・休日/8:30~20:30
  - ・料金/両方共に3時間まで300円  
以後1時間毎100円加算

## 横浜市立みなと赤十字病院

YOKOHAMA CITY MINATO RED CROSS HOSPITAL  
〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1  
Tel: 045-628-6100 Fax: 045-628-6101

## 編集後記

この度、今までの広報誌をリニューアルし、名称も心機一転し、新しい広報誌としてデビューしました。皆様のご感想はいかがでしたでしょうか。当院の動きを皆様に知って頂くことで、当院を利用する際に少しでもこの広報誌がお役に立てば幸いです。今後のよりよい広報誌作成のためにもぜひアンケートへのご協力をお願い致します。